
偽ワールドカップ2026

肩胛骨トミエ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

偽ワールドカップ2026

【Nコード】

N2469G

【作者名】

肩胛骨トミエ

【あらすじ】

時は2026年、ワールドカップ。サッカー日本代表はベスト4をかけてフランスと死闘を繰り広げていた。異色のスポーツ小説、此処に見参。

2026年スイスワールドカップ。日本は決勝トーナメントにてベスト4をかけ、現在私の目の前テレビで戦いを繰り広げている。思えば日本も強くなったものだ。2022年はベスト8であった。今年こそはやってくれる優勝の可能性も大いにある、というのが世界の認識だ。しかし現在の相手はフランス、強豪中の強豪だ。ミエルにトーマス、最強の2トップはもはや誰にも止められない。日本最強のキーパー、川口能活(51)でも止めることはできず、前半が終わった時点で「日本1-2フランス」だ。

日本も得意の細かいパス回しから、やぶせあか藪瀬岡の鋭いクロスが相手デイフェンダー、チヨトスのケツにあたり、オウンゴールではあるが一点をもぎ取っている。ボールポゼッションでは、圧倒的に日本が優位で62パーセントとなっている。ただ、シュート数は2(0)だ。フランスは12(9)だ(括弧内は枠内シュート)。それでも前半終わって2失点しかしていないことは川口のおかげといっても過言ではない。と言いたいが、そこは日本最強のスイーパー、さかがみ阪上やま山のおかげだ。なんと阪上山は枠内シュート9本中5本を止めている。ピンチの時はキーパーの後ろにポジジョンをとり、その優れた反射神経でボールを掻きだすのだ。実況のおっさんがその度に「お前がキーパーやれよ。」ってつつこんでいたのが印象的だ。お、そろそろ後半が始まるな。

後半は圧倒的にフランスペースだ。さすがフランスだ。2022年、ウィーンワールドカップで優勝しただけの事はある。しかし、再三のチャンスも、阪上山を中心とした最強ディフェンス陣がことごとくシャットアウトしている。すごいぞ。

そして後半29分日本は最大のビックチャンスを迎えた。ゴール正面22メートルの位置からフリーキックだ。蹴るのはもちろんこの男、島村谷^{しまむらたに}だ。笛が鳴った。決める、島村谷！おっとトリックプレーだ。島村谷サイドに待機していた藪瀬岡にパスだ。「おいー！ー！ー！」さすがに実況のおっさんも怒っている。「藪瀬岡、フリーで敵陣を突っ切る。そして鋭いクロスを上げた。待っているのは元ブラジル人の長身フォワード、マルセイオロス南元晴^{みなもと はる}だ。南元晴飛んだ。密着マークをしていたフランスのチョトスも飛ぶ。………：決まった！ゴール！決めたのはこの人、またしても、チョトス（のケツ）！またしてもオウンゴールだ！チョトス頂垂れている。この大舞台で二度のオウンゴール、二度のヒップアタック。これはフランスが負ければ戦犯扱いは否めないでしょう。それにしても日本、見事なトリックプレーから同点弾を叩き出しました。」うむ。実況の言うようにチョトスが可哀そうだ。なんにしても同点。時間はあと15分ある。日本、勝てるかもしれない。

試合が動いたのは後半ロスタイム。逆転弾は日本お得意の細かいパス回しから生まれた。20本ぐらいの細かいパス回しから島村谷がワントップの南元晴にキラーパスを送った。しかし、南元晴、チョトスの猛烈なタックルを受けパスを島村谷にリターン。島村谷はそのボールをスルー。後ろにいたのはボランチの藤山本^{ふじやまもと}。藤山本はシュートを打つと見せかけ、サイドに流れていた藪瀬岡にパス。藪瀬岡、更にサイドを切れ込み、ゴール前に鋭いクロスを上げた。しかし、このクロスはフランスの守護神トレーゼンゲがファインセーブ。延長突入かと思われたその時、奇跡が起こった。なんとキーパーの弾いたボールが、何も知らずに南元晴を密着マークしていたチョトスのケツにヒット。もうお分かりのようにボールはそのままゴールに吸い込まれていった。

大歓声が鳴りやまない。キックオフとほぼ同時に試合終了の笛。

日本は初めてベスト4に駒を進めたのだ。世界でも初であろう、逆ハットトリックを決めたチヨトスは、フィールドで倒れたまま起き上がれない。まるでいつかの日本の英雄、中田を見ているようだ。対照的に日本のイレブンは大はしゃぎだ。藪瀬岡は俺が決めた、みたいな顔で監督や選手に抱きついていて。いや、でもすごいわ。私は感動で胸がいっぱいだった。しばらくしてヒーローインタビューが始まった。最初は藪瀬岡だった。

アナ「おめでとうございます。初のベスト4ですね」

藪瀬「いやー、やったわ。これはすごいわ。」

ア「藪瀬岡選手がすべての得点の起点となりましたね。」

藪「いやー、あれは、こう言ったら何なんですけどラッキーですわ。」

ア「すべてがオウンゴールを少し煮え切れない結果でしたね。」

藪「いやー、そういうこと言うなや。勝ちも勝ちや。」

ア「……次の試合に向けての意気込みをお願いします。」

藪「いやー、次もいっしょや。勝つために戦うわ。」

ア「ありがとうございます。」

藪瀬岡はニヤニヤしながらカメラに向かってガッツポーズを決めた。その顔は、まさに天狗であった。そして、次のインタビューは日本代表の監督だった。

ア「続きまして、ひがしにしきた東西北監督です。監督、おめでとうございます。」

監「うん、ありがとう。」

ア「すべてがオウンゴールと少し煮え切れない結果でしたね。」

監「まあサッカーは勝った者が強いからね。そこはどうでもいいと思います。」

ア「しかし、日本は結果シュート数3、枠内シュートは0でした。」

監「……いいじゃないですか。勝てば。」

ア「……………次の試合に向けての意気込みをお願いします。」

藪「いやー、次もいっしょや。勝つために戦うわ。」

ア「なんでお前が答えんだよ!」

藪「!？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2469g/>

偽ワールドカップ2026

2010年10月12日08時29分発行